

専門分野					
科目名				担当講師	
75.基礎看護学実習 I				岡村ひろみ 看護師33年	渡部恵利香 看護師8年
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	
1	前期	30	1	実習	
DPとの関連	2. 対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3. 主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 5. 地域で暮らし人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 9. 多様な文化・価値観を持ったありのままの人間を尊重することができる				
科目目的	1. 様々な療養の場で生活する対象を理解する 2. 看護師及び介護士が生活行動を支援している場面を見学し、その対象に合わせた支援の必要性に気づき、対象を尊重する姿勢を学ぶ 3. 自己の学びを発信し、他学生の学びを傾聴することで、学び合う姿勢を学ぶ				
科目目標	1. 病院の特徴と上越地域における病院の機能を理解する 2. 施設の特徴と上越地域における施設の機能を理解する 3. 病院で生活行動の支援を見学し、対象に合わせて実践する必要性に気づく 4. 施設で生活行動の支援を見学し、対象に合わせて実践する必要性に気づく 5. 看護師や介護士の関わりから、対象の思いを大切に理解する 6. 自己のやるべきことを見極め、自発的に取り組む 7. 自己の学びを的確に伝え、他学生の多様な学びを傾聴し、目標達成に向けて共有する				
授業内容					備考
実習時間	1. 病院実習26時間 2. 学内実習4時間				
実習内容方法	1. 病院実習2日間、施設実習2日間(介護老人保健施設1日間、特別養護老人ホーム1日間)で看護師または介護士に同行して見学実習を行う 2. 看護部長、施設長からの説明を実習ノートに記述し、事前学修と関連づけて、地域における実習病院、実習施設の機能を理解する 3. 既習の知識と関連づけて担当看護師と対話することで、見学実習で体験した学修内容の理解を深める 4. 見学実習での学修内容は、気づきシートに記述して、今後の看護へ生かせるようにする 5. 2～4での体験をカンファレンスで発信し、グループメンバーと学びを共有する 6. 学内実習では、グループでの学びを実習目標に沿ってまとめ、学年全体に向けて発表をし、学びを共有する 7. 基礎看護学実習 I での学びをレポートに記述し、看護に対する思いを育む				
実習施設	1. 実習病院 新潟県立中央病院 新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院 新潟県立柿崎病院 独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター病院 独立行政法人労働者健康安全機構 新潟労災病院 医療法人 知命堂病院 新潟県厚生農業協同組合連合会 糸魚川総合病院 2. 実習施設 介護老人保健施設 くびきの 介護法人保健施設 サンクス米山 特別養護老人ホーム しおさいの里 特別養護老人ホーム サンクスレルヒの森				
事前学修	1. 各病院、施設の理念・目標 2. 実習病院、実習施設の地域の特徴 3. 看護師の役割と機能 4. 多職種の役割と機能 5. ケアリングについて 6. コミュニケーション技術について				
使用テキスト: 新体系 看護学全書 基礎看護学概論 基礎看護学技術 I 基礎看護学技術 II 参考資料: 看護がみえる①、②メディックメディア					
評価方法: 実習評価表に基づいて行う					

専門分野					
科目名				担当者	
76.基礎看護学実習Ⅱ				岡村ひろみ 看護師33年	渡部恵利香 看護師8年
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	
1	後期	45	1	授業形態	
DPとの関連				実習	
<ul style="list-style-type: none"> 2. 対象に関心に向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、ともに生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3. 主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 6. その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8. 看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる 					
科目目的				<ul style="list-style-type: none"> 1. 療養中の看護の対象から、「生活行動の支援」の必要性を理解する 2. 看護支援の見学・実践を振り返り、看護実践における看護技術は「理論」と「実践」で構成されていることを理解する 3. 今後の学習の目的や課題を見出すことができる 	
科目目標				<ul style="list-style-type: none"> 1. 病院における対象の生活環境を理解する 2. 「生活行動の支援」の必要性に気づき、看護の役割を理解する 3. 療養中の看護の対象者とのコミュニケーションが図れる 4. 実習目標を理解し、主体的な学習姿勢で臨む 5. 礼節をわきまえた行動がとれる 6. 看護学生として責任のある行動がとれる 	
授業内容					備考
実習時間				病院実習 8:30～16:30 13日間 学内実習 8:30～16:30 1日間	
実習内容・方法				<ul style="list-style-type: none"> 1. 看護師に同行し、その活動場面から生活行動の支援・コミュニケーションの方法を学ぶ 2. 同行する看護師が対象に実践している支援の根拠を考える 3. 実習3日目を学内実習とし、2日間のリフレクションと4日目以降の援助の準備を行う 4. 基礎看護学方法論Ⅱ(環境)の既習の知識をもとに事前学習を行い、その知識を踏まえて実際の病棟・病室の環境について理解する 5. 対象を1人選定していただき、療養生活環境を観察して気づいた点を記述、必要に応じて対象の療養生活環境を測定して環境における個性性をアセスメントする 6. 療養生活環境のアセスメントから、安全・安楽のための環境調整を理解する 7. アセスメントを踏まえて環境調整の援助計画表を作成し、実践する 8. 看護師の対象への関わり方を学びながら積極的に対象とのコミュニケーションを図る 9. 8のコミュニケーションでの場面を選択し、プロセスレコードを記述する 10. 同行する看護師の活動場面から、看護の役割について考え、レポートに記述する 11. 学校で学んだ知識・技術・態度を想起させ、実習での学びと比較することで考えを深める 12. カンファレンスを毎日行い、グループ間で学びを共有する 13. 基礎看護学実習Ⅱでの学びをレポートに記述し、自己の目指す看護師像を描出する 	
実習施設				新潟県立柿崎病院 新潟県立中央病院 新潟県厚生農業協同組合連合会上越総合病院 新潟県厚生農業協同組合連合会けいなん総合病院 医療法人知命堂病院 独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター 新潟県立松代病院 新潟県厚生農業協同組合連合会糸魚川総合病院 独立行政法人労働者健康安全機構新潟労災病院	
事前学習					
<ul style="list-style-type: none"> 1. 療養生活環境に影響を及ぼす要素 2. 快適な環境の基準値 					
使用テキスト:新体系 看護学全書 基礎看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ					
参考資料:看護が見える①、② メディックメディア					
評価方法:実習評価表に基づいて行う					

専門分野					
科目名				担当者	
77.基礎看護学実習Ⅲ				岡村ひろみ 看護師33年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	90	2		実習
DPとの関連	2. 対象に関心に向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3. 主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 4. 看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 6. その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 8. 看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	1. V. ヘンダーソンの看護理論を用いて対象者を理解し、看護過程が展開できる 2. 看護者として責任のある行動をとることができる				
科目目標	1. コミュニケーションを通して、対象の気持ちを尊重する 2. 受け持ち対象者を生活行動の視点から身体・精神・社会的側面・発達段階を踏まえて理解する 3. 受け持ち対象者の生活行動における健康問題を分析・解釈する 4. 受け持ち対象者の生活行動における健康問題の解決に向けた個別具体的な看護計画を2つ立案する 5. 受け持ち対象者の健康問題の解決に向けた個別具体的な看護計画を実施・評価する 6. 実習目標を理解し、主体的な学習姿勢で臨む 7. 礼節をわきまえた行動がとれる 8. 看護学生として責任のある行動がとれる				
授業内容					備考
実習時間	病院実習 84時間 学内実習 6時間				
実習内容・方法	1. 受け持ち対象者を決定し、看護計画の立案、実施、評価を行う 2. 行動計画、実習目標を毎日立案し臨地実習指導者に報告して助言を受けてから行動する 3. 報告は原則として午前・午後各1回と適宜必要時に行う 4. 行動計画・実施表の「学んだこと」の欄は、その日の実習で得た学びや自己の看護の振り返りなどを記入し、担当教員から指導を受けたのちに、臨地実習指導者に提出する 5. 日々の学びを実習ノートに記録する 6. 実習記録は随時教員へ提出し指導を受ける 7. 援助の実践は、援助計画表を作成し、指導や助言をうけてから実施する 8. 中間カンファレンスで、看護計画について受け持ち看護師より指導や助言をうける 9. 中間カンファレンスの翌日、学内で、看護計画に基づいた看護援助を実施するための準備や確認を行う 10. 看護技術卒業時到達度のⅠ・Ⅱレベルをできる範囲で経験する 11. 基礎看護学実習Ⅲでの学びをレポートに記述し、対象理解と看護実践に向けた課題を見出す				
実習施設	新潟県立柿崎病院 新潟県厚生農業協同組合連合会上越総合病院 医療法人知命堂病院 独立行政法人労働者健康安全機構新潟労災病院 新潟県立中央病院 独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター 新潟県立松代病院				
事前学習	1. ペーパーペイシエントの事例について、ヘンダーソンの理論を用いて分析・解釈を行う 2. バイタルサイン測定、環境調整の援助計画表を作成する				
使用テキスト:新体系 看護学全書 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 参考資料:ヘンダーソンの基本看護に関する看護問題リスト NOUVELLE HIROKAWA 看護が見える①、②、④メディックメディア					
評価方法:実習評価表に基づいて行う					

専門分野					
科目名				担当講師	
78.地域・在宅看護論実習				俣野詩織 看護師6年 宮越 陽子 保健師・看護師17年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
3	前期	90	2		実習
DPとの関連	<p>1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる</p> <p>5.地域で暮らし人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる。</p> <p>6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる。</p> <p>8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲を持って、主体的に学習に取り組むことができる。</p> <p>9.多様な文化・価値観を持ったありのままの人間を尊重することができる。</p> <p>10.国際情勢、地域の動向に関心を持つことができる。</p>				
科目目的	在宅生活を送る上での地域包括ケアシステムや専門職の役割、地域における支援の実際を理解する。そして、在宅で療養生活をしている対象者とその人を取り巻く家族への支援について理解を深め、対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。				
科目目標	<p>1. 在宅療養者の特徴を理解する</p> <p>2. 在宅療養者を取り巻く環境を理解する</p> <p>3. 看護過程を用いて在宅療養者とその家族に必要な看護援助を見出す</p> <p>4. 訪問看護師と同行訪問し在宅療養者とその家族に必要な援助を実践する</p> <p>5. 訪問看護ステーションの機能・役割を理解する</p> <p>6. 在宅療養者・家族を支える地域包括ケアシステムを理解する</p> <p>7. 専門職業人としての態度を身につけ、倫理的な判断に基づいて行動する</p>				
<p>事前学修:各施設の位置づけや業務内容、役割、対象者の特徴について学習しまとめておく。</p> <p>老年期の一般的な加齢変化について学習しまとめる。</p> <p>生活と健康で既習学修した上越地域の現状と課題について振り返りをし、まとめる。</p>					
授業内容					備考
実習時間	<p>学内実習: 15時間</p> <p>デイケア実習、地域包括支援センター実習、居宅介護支援事業所:各7.5時間</p> <p>訪問看護ステーション実習 52.5時間</p>				
実習内容・方法	<p>・実習1日目は、生活と健康で学修した上越地域の状況と課題と、現在の上越地域の現状を比較し、課題を学習する。訪問看護ステーション実習に向けての準備として、在宅看護では、療養者の現状だけでなく、今後の予測について分析し、予防的視点で看護過程を展開することが特に重要である。その点を踏まえ、各ステーションから事前に提示されている受け持ち療養者1事例の情報をもとに予防的視点から分析・解釈を進める。そのうえで情報収集したい内容を考え、まとめる時間とする。</p> <p>・社会人基礎能力を養う一貫として、学生が地域包括支援センター、居宅介護支援事業所の実習前日に電話で実習の予定、何う時間について確認をする。</p> <p>・デイケア実習は、看護師や介護士に同行し、1日実習を行い、デイケアの機能や役割について理解する。また、主体的に利用者や会話をし自宅での生活、デイケアについて話を伺う。</p> <p>・地域包括支援センターや居宅介護支援事業所では、利用されている方のお宅に同行訪問する。そこで各施設の専門職の役割、地域のおかれている現状や課題、支援の実際を理解する。</p> <p>・訪問看護ステーション実習では、療養者を1事例を受け持ち、療養者本人と家族の顕在的、潜在的問題を今後の予測も含め分析し、危険回避の視点から看護過程を展開していく。また、同行訪問の中で地域包括ケアの看護師の役割を理解する。</p> <p>・最終日は、10日間の臨地実習での体験や在宅看護過程をグループ内で発表、意見交換を行う。実習関連施設で体験したことを基に上越地域の地域包括ケアシステムをまとめ、発表、意見交換を行い、学びを深める。</p>				
実習施設	<p>上越医師会訪問看護ステーション</p> <p>訪問看護ステーションけいなん</p> <p>医療法人知命堂病院訪問看護ステーション</p> <p>訪問看護ステーション だいにち</p> <p>訪問看護ステーション みのり</p> <p>訪問看護ステーション ココロ高田駅前</p> <p>上越市内地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・デイケア</p>				

使用テキスト:メディカ出版 在宅看護論①、在宅看護論②
参考資料:生活と健康で学修した資料

評価方法:実習態度・実習記録内容・課題レポート内容から実習目標の達成度を評価表を基に評価する。
実習態度などは実習指導者からの情報を得て、評価する。

専門分野					
科目名				担当講師	
79.対象の体験からQOLを考えて看護につなぐ実習				星野めぐみ 看護師21年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	30	1	地域・在宅0.5 成人0.5 老年0.5	実習
DPとの 関連	<p>1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合う</p> <p>3.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える</p> <p>4.地域で生活する人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断する</p> <p>8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組む</p>				
科目 目的	成人・老年期にある対象が体験する多様な健康レベル、生活レベルに応じた看護を学び、対象のQOLの維持に向けた看護を実践できる基礎とする。				
科目 目標	<p>1.様々な療養の場で対象の体験を知り、その人らしい生を支える看護を考える</p> <p>2.様々な健康レベル、生活レベルにある対象とその家族の身体・精神・社会的な特徴を理解する</p> <p>3.様々な健康レベル、生活レベルにある対象とその家族の生命や生活を支える看護の特徴と実際を理解する</p> <p>4.様々な健康レベル、生活レベルにある対象と家族に関わるチームメンバーの連携・協働の必要性と実際を理解する</p> <p>5.看護専門職として社会人基礎力を意識し、自己の課題にむけて主体的に学修に取り組む</p>				
授業内容					備考
実習時間	1.病院実習26.5時間(救急看護実習7時間、透析看護実習13時間、緩和ケア実習6.5時間) 2.学内実習3.5時間				
実習 内容 方法	<p>1.救急看護実習</p> <p>1)実習内容 救命救急センターでの見学実習から体験したことをリフレクションすることで、生命の尊さや看護師の観察力・アセスメント能力の重要性を学び、対象とその家族への看護を実践できる基礎的な能力を養う。</p> <p>2)実習方法 看護師の同行し、既習の知識をもとに担当看護師と対話することで、見学実習で体験した学修内容の理解を深める。見学実習での学修内容は、学びシートに記述してリフレクションし、今後の看護に生かせるようにする。また、救命救急センターでの学びをレポートに記述する。</p> <p>2.透析室実習</p> <p>1)実習内容 透析療法の見学、透析療法を受けている対象を受け持ちすることで、透析療法を受けている対象の身体・精神の特徴を理解する。また対象とその家族を支える看護と多職種連携についての理解を深め、健康レベル・生活レベルに応じた看護を実践できる基礎的な能力を養う。</p> <p>2)実習方法 透析療法を受ける対象を受け持ち、入室から退室までの一連につき添い、体験をする。その付き添い間に、透析治療や治療を継続していくなかでの対象・その家族の経験を聴く。上記の体験したことを学びシートに記述してリフレクションし、今後の看護に生かせるようにする。また、透析室での学びをレポートに記述する。</p> <p>3.緩和ケア実習</p> <p>1)実習内容 ビハラー病棟での看護を見学することで、終末期を迎える患者・家族の身体的・精神の特徴を理解する。また患者・家族を支える看護と多職種連携について理解を深め、その人らしい生を支える看護を実践できる基礎的な能力を養う。</p> <p>2)実習方法 看護師に同行して見学実習を行う。上記の体験したことを学びシートに記述してリフレクションし、今後の看護に生かせるようにする。また、ビハラー病棟での学びをレポートに記述する。</p> <p>4.学内実習 見学実習での体験や学びを発表し、全体で学びを共有する。</p>				
実習施設	新潟県立中央病院 救命救急センター・透析室 新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院 透析室 新潟県厚生農業協同組合連合会 けいなん総合病院 透析室				

事前学修

- 1.各実習施設での健康レベルに応じた対象とその家族の特徴
- 2.各実習施設の機能と役割、特徴
- 3.各実習施設での看護師の役割、法的範囲
- 4.各実習施設でかかわることの多い病態と疾患
- 5.各実習施設での多職種の役割

使用テキスト:講義で使用したテキスト

参考資料:講義で配布した資料

評価方法:実習評価表に基づいて行う

専門分野					
科目名				担当講師	
80.高齢者と生活を学ぶ実習				佐々木保子 看護師7年 俣野詩織 看護師6年 宮越陽子 保健師・看護師17年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	後期	30	1	地域・在宅看護論0.5・老年看護学0.5	実習
DPとの 関連	<ol style="list-style-type: none"> 1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 7.切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる 9.多様な文化・価値観を持ったありのままの人間を尊重することができる 10.国際情勢、地域の動向に関心をもつことができる 				
科目目的	上越地域に暮らす高齢者とその特徴と、在宅生活および施設生活の状況を理解し、看護師とともに連携・協働する職種の目的と役割を学ぶ				
科目 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 上越地域でサービスを利用して暮らす高齢者の身体的、精神的(スピリチュアルな側面を含む)、社会的特徴を説明できる 2 高齢者の生活の場である施設(在宅)の個別の環境について説明できる 3 サービスを利用している高齢者の特徴と日常生活を支える様々なケアを説明できる 4 高齢者のもつ健康障害、生きてきた過程や家族への思いからその人らしさの生活を理解できる 5 介護保険サービスを利用している高齢者への各専門職の役割と連携・協働の実際、多職種チームの中での看護の役割を説明できる 6 学修に対し、主体的に責任を持ち、施設職員、他学生と協同する行動ができる 7 対象の尊厳及び権利を尊重した関わりができる 				
事前学修:基礎看護学における技術の練習を行う。社会人基礎力の内容を確認しまとめておく。					
授業内容					備考
実習時間	デイサービス 14時間 介護老人福祉施設 あるいは 介護老人保健施設 どちらかで14時間 最終日学内実習 2時間				
実習 内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・受け持ちをとらず、介護士に同行し、高齢者の生活や援助の一部介助をする。実習時間終了近くに、同行介護士と利用者について確認(高齢者本人やケアについて最後の質疑応答)を行う ・関わった高齢者とその生活についてご本人へインタビューあるいは職員へ質問し、特徴やケア、思いを観察し、考察、記述する ・学内実習では、様々な高齢者の特徴や、在宅、施設生活の環境、思いについてグループ発表を行う 				
実習施設	在宅サービス実習: 上越市社会福祉協議会関連施設 施設サービス実習: ・介護老人保健施設くびきの ・介護老人保険施設はねうまの里 ・介護老人保健施設サンクス米山 ・特別養護老人ホームしおさいの里 ・特別養護老人ホームレルヒの森				
使用テキスト:医学書院;保健医療福祉論、老年看護学 メディカ出版;在宅看護論①② メディックメディア;看護が見える 参考資料:生活と健康が学修した資料および生活と地域包括ケアで学修した資料					
評価方法:実習態度・実習記録内容・課題レポートから実習目標の達成度を評価表を基に評価する。実習態度などは実習指導者からの情報を得て、評価する。					

専門分野					
科目名				担当講師	
81.精神看護学実習				佐々木保子 看護師7年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	後期	90	2単位		実習
DPとの関連	2)対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる。 4)看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる。 9)多様な文化・価値観を持ったありのままの人間を尊重することができる。				
科目目的	こころを病む人々が、人間的尊厳をもってそのひとらしい生き生きとした生活を送れるように精神看護の実践に必要な知識・技・態度を修得する。				
科目目標	1.精神に障がいをもつ人の心と行動を身体的・心理的・社会的観点から理解できる。 2.対象者－学生関係の発展過程を理解し治療的関わりの技法を学ぶ 3.看護過程を用いて基本的欲求の充足状態をアセスメントする 4.対象者の治療的環境および生活環境としての病院(病棟)の構造と特徴について理解できる。 5.地域で暮らす障がい者が健康上、生活上でどのような援助を必要としているか理解できる 6.専門職業人として常に自己研鑽していく姿勢を持つことができる				
授業内容					備考
実習時間	病院・施設実習 82.5時間 学内実習 7.5時間				
実習内容・方法	病棟実習①受け持ち対象者の全体像を理解し、看護過程を展開する。 ②援助を通して治療的関わりの技法を実践する。 ③精神科病棟、医療観察法病棟の治療環境の特徴を理解する。 地域・施設実習 ①利用者とのコミュニケーションを図り、精神に障がいを持つ人の生活や就労状況および支援の実際について理解する。 ②精神に障がいを持つ対象者が地域で健康に暮らすための健康講座を実施する。 学内実習①病棟、地域施設実習でプロセスレコードを4事例以上記載・分析し、グループで検討会を実施し、自己のコミュニケーションの傾向や自己理解を深める。 ②SSTの手法を用いてカンファレンスを行いグループでの問題解決技法を習得する。				
実習施設	独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター 南1病棟 南2病棟 精神デイケア 医療観察法病棟 社会福祉法人頰城会 夕映えの郷 夕映え耕房 地域活動支援センターこもれBee 自立訓練施設こころ場				
事前学習					
1)精神看護の基本 ・精神看護におけるコミュニケーション・プロセスレコードの目的、書き方・セルフケア理論					
2)症状アセスメント ・思考障害・知覚障害・感情障害・意欲障害・記憶障害 など					
3)主な精神障がいの理解(症状・治療・看護) ・統合失調症・気分障害・アルコール依存症 ・精神療法 薬物療法 リハビリテーション 心理社会療法					
4)精神障がいに関する法制度 ・精神保健福祉法(入院形態 隔離・拘束)・心神喪失者等医療観察法					
使用テキスト: 精神に障がいをもつ人の看護 メディカルフレンド社 参考資料: 講義資料 など					
評価方法: 実習評価表に基づく					

専門分野					
科目名				担当講師	
82.対象の体験からQOLを考えて看護につなぐ実習				星野めぐみ 看護師21年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	30	1	地域・在宅0.5 成人0.5 老年0.5	実習
DPとの 関連	<p>1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合う</p> <p>3.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える</p> <p>4.地域で生活する人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断する</p> <p>8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組む</p>				
科目 目的	成人・老年期にある対象が体験する多様な健康レベル、生活レベルに応じた看護を学び、対象のQOLの維持に向けた看護を実践できる基礎とする。				
科目 目標	<p>1.様々な療養の場で対象の体験を知り、その人らしい生を支える看護を考える</p> <p>2.様々な健康レベル、生活レベルにある対象とその家族の身体・精神・社会的な特徴を理解する</p> <p>3.様々な健康レベル、生活レベルにある対象とその家族の生命や生活を支える看護の特徴と実際を理解する</p> <p>4.様々な健康レベル、生活レベルにある対象と家族に関わるチームメンバーの連携・協働の必要性と実際を理解する</p> <p>5.看護専門職として社会人基礎力を意識し、自己の課題にむけて主体的に学修に取り組む</p>				
授業内容					備考
実習時間	1.病院実習26.5時間(救急看護実習7時間、透析看護実習13時間、緩和ケア実習6.5時間) 2.学内実習3.5時間				
実習 内容 方法	<p>1.救急看護実習</p> <p>1)実習内容 救命救急センターでの見学実習から体験したことをリフレクションすることで、生命の尊さや看護師の観察力・アセスメント能力の重要性を学び、対象とその家族への看護を実践できる基礎的な能力を養う。</p> <p>2)実習方法 看護師の同行し、既習の知識をもとに担当看護師と対話することで、見学実習で体験した学修内容の理解を深める。見学実習での学修内容は、学びシートに記述してリフレクションし、今後の看護に生かせるようにする。また、救命救急センターでの学びをレポートに記述する。</p> <p>2.透析室実習</p> <p>1)実習内容 透析療法の見学、透析療法を受けている対象を受け持ちすることで、透析療法を受けている対象の身体・精神の特徴を理解する。また対象とその家族を支える看護と多職種連携についての理解を深め、健康レベル・生活レベルに応じた看護を実践できる基礎的な能力を養う。</p> <p>2)実習方法 透析療法を受ける対象を受け持ち、入室から退室までの一連につき添い、体験をする。その付き添い間に、透析治療や治療を継続していくなかでの対象・その家族の経験を聴く。上記の体験したことを学びシートに記述してリフレクションし、今後の看護に生かせるようにする。また、透析室での学びをレポートに記述する。</p> <p>3.緩和ケア実習</p> <p>1)実習内容 ビハラー病棟での看護を見学することで、終末期を迎える患者・家族の身体的・精神の特徴を理解する。また患者・家族を支える看護と多職種連携について理解を深め、その人らしい生を支える看護を実践できる基礎的な能力を養う。</p> <p>2)実習方法 看護師に同行して見学実習を行う。上記の体験したことを学びシートに記述してリフレクションし、今後の看護に生かせるようにする。また、ビハラー病棟での学びをレポートに記述する。</p> <p>4.学内実習 見学実習での体験や学びを発表し、全体で学びを共有する。</p>				
実習施設	新潟県立中央病院 救命救急センター・透析室 新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院 透析室 新潟県厚生農業協同組合連合会 けいなん総合病院 透析室				

事前学修

- 1.各実習施設での健康レベルに応じた対象とその家族の特徴
- 2.各実習施設の機能と役割、特徴
- 3.各実習施設での看護師の役割、法的範囲
- 4.各実習施設でかかわることの多い病態と疾患
- 5.各実習施設での多職種の役割

使用テキスト:講義で使用したテキスト

参考資料:講義で配布した資料

評価方法:実習評価表に基づいて行う

専門分野					
科目名				担当講師	
83.成人・老年看護学実習 I				星野めぐみ 看護師21年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2～3	通年	90	2	成人0.6 老年1.4	実習
DPとの関連	<p>1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる</p> <p>2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感ずることができる</p> <p>4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える</p> <p>5.地域で生活する人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断する</p> <p>8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組む</p>				
科目目的	成人期・老年期にある対象者を統合的にとらえ、手術侵襲や生体反応を起こしている対象者及びその家族に対して、科学的根拠に基づいた看護を実践するための知識・技術・態度を習得する。				
科目目標	<p>1.成人期・老年期にある対象者のこれまでの生活史や人生史からの価値観を尊重し、援助に必要な基本的な人間関係を築くことができる</p> <p>2.周手術期にある成人期・老年期の対象者が、手術侵襲や生体反応により影響をうけることを身体的・精神的・社会的・発達課題の側面から統合的に理解することができる</p> <p>3.周手術期にある成人期・老年期の対象者をリスク型看護問題の視点でアセスメントし、看護過程の展開ができる</p> <p>4.成人期・老年期にある対象者の術後合併症の予防と今後の生活を見据えた看護を、科学的根拠に基づき安全・安楽を考慮して実践できる</p> <p>5.侵襲的な治療を受けた成人期・老年期の対象者に対して、専門職業人としての態度を身につけ、倫理的な判断に基づいて行動することができる</p> <p>6.侵襲的な治療を受けた成人期・老年期の対象者及びその家族に対して、医療チームメンバーにおける看護の役割を学び、情報共有や連携の必要性を理解できる</p>				
授業内容					備考
実習時間	1.病院実習時間82.5時間 2.学内実習時間7.5時間				
実習内容方法	<p>1.実習では、全身麻酔下の手術を受ける対象者を術前から受け持ち、術後合併症のリスクをヘンダーソンの14項目の視点でアセスメントする</p> <p>2.アセスメント項目は、手術・麻酔に伴う一般的な影響(生体反応)と基礎疾患による健康障害の程度、併存・既往疾患を踏まえて優先順位の高い項目を行う</p> <p>3.学内実習で受け持ち対象者の情報について思考の整理をし、個別性を踏まえた技術練習をする</p> <p>4.手術室見学は、原則として受け持ち対象者の手術を見学する</p> <p>5.1でアセスメントした項目を関連図<急性期>で情報の統合し、看護計画<急性期>を立案する</p> <p>6.対象の健康レベルが、急性期から回復期に移行したときには、看護計画<急性期>を評価して継続の必要性の有無を判断する。</p> <p>7.退院後の生活の再構築・自己管理に向けての援助・指導を考える上で必要なアセスメント項目のアセスメントを行う。</p> <p>8.6で継続が必要と判断した看護計画とアセスメントした項目を関連図<回復期>で統合し、看護計画<回復期>を立案する。</p> <p>9.急性期・回復期の看護計画の目標は、短期目標を立案して評価していく。ただし、回復期の看護計画には目標の欄の一番上に充足状態を記述する。</p> <p>10.看護計画の評価・修正、看護実施の記録を記述をする。</p>				
実習施設	新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院				
事前学修	<p>1.周手術期の麻酔および侵襲の影響の表を用いて、侵襲による生体反応(ムーアの説)を理解する</p> <p>2.手術後におこしやすい合併症、侵襲・麻酔が生体に及ぼす影響と手術後の修復経過などのメカニズム(発生時期)を理解する</p> <p>3.2の合併症の評価に必要な検査データ・情報の意味・基準値を理解する</p> <p>4.講義での事例の看護過程を修正・理解する</p> <p>5.1～4を踏まえて、術後合併症を早期発見するために必要なフィジカルアセスメントの援助計画表を作成する</p> <p>6.フィンクの危機モデルを理解する</p> <p>7.倫理の原則を理解する</p>				
使用テキスト	講義で使用したテキスト				
参考資料	講義で配布した資料				
評価方法	実習評価表に基づいて行う				

専門分野					
科目名				担当講師	
84.成人・老年看護学実習Ⅱ				星野めぐみ 看護師21年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2～3	通年	90	2	成人0.6 老年1.4	実習
DPとの関連	2.対象に関心に向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じる 3.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える 4.地域で生活する人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断する 5.その人らしく生活することが出来るように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践する 6.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高める 7.切れ目のない医療の実現に向け、他職種チームの中で看護の視点から発信でき、他職種と対話する 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組む 9.多様な文化・価値観を持ったありのままの人間を尊重する				
科目目的	成人期・老年期にある対象者を統合的にとらえ、慢性期にある対象者及び家族に対して、科学的根拠に基づいた看護を実践するための知識・技術・態度を習得する				
科目目標	1.成人期・老年期にある対象者の生活史や人生史からの価値観を尊重し、援助に必要な基本的な人間関係を築くことが出来る 2.慢性期にある成人期・老年期の対象者の特性を身体的・精神的・社会的・発達段階の側面から統合的に理解することが出来る 3.慢性期にある成人期・老年期の対象者をセルフマネジメント能力の確立の視点でアセスメントし、看護過程の展開ができる 4.成人期・老年期の対象者のQOLを尊重し、セルフマネジメント能力を踏まえた退院後の生活を見据えた看護を、科学的根拠に基づき、安全・安楽を考慮して実践できる 5.慢性期にある成人期・老年期の対象者に対して、専門職業人としての態度を身につけ、倫理的な判断に基づいて行動することが出来る 6.慢性期にある成人期・老年期の対象者及びその家族に対して、フォーマルな社会資源を学び、医療チームメンバーの情報共有や連携の必要性を理解できる				
授業内容					備考
実習時間	実習期間:12日間(病院実習10日、学内実習2日)				
	1) 病院実習 1.対象者の疾病による症状と支援者の状況、また生活とともに自己管理を行う上で必要なセルフマネジメント能力をヘンダーソン14項目の視点でアセスメントする 2.アセスメント項目は、対象者のQOL、セルフマネジメント能力を踏まえ、退院後の生活を見据えて優先順位の高い項目を行う 3.援助は、看護計画が立案されていなくともアセスメントの指導を受けて対象の状態把握ができていれば、援助計画表をもとに実施する 4.14項目のアセスメントを、全体像で情報の統合を行う 5.対象者の今後の生活を見据え、自立性・自律性を促し自己効力を高められる看護計画を立案する 6.看護計画の目標、評価・修正、看護実施記録は、記述する 7.看護計画をもとに受け持ち対象者又は家族・支援者のセルフマネジメント能力を踏まえて、退院後の生活の再構築・自己管理に向けた指導を実施する 8.看護計画の評価を踏まえて、対象者・家族に今後も継続が必要とされる援助・指導の経過を看護要約に記述する 2)学内実習 対象のQOL、セルフマネジメント能力を踏まえ、退院後の生活を見据えた看護実践に向けた思考整理、看護援助の学習を行う 病棟実習での学びをもとに、対象に安全安楽に看護を実践するための技術練習を行う				
実習施設	国立病院機構さいがた病院 新潟県厚生農業協同組合連合会上越総合病院				
事前学修	1.患者の思いを知るために、慢性疾患を患っている患者の手記や配信動画を見て、感想や思いをレポートにまとめる 2.講義で学んだ看護要約の記述方法を復習する 3.病みの軌跡を理解する 4.フィングの危機モデル・コーンの危機モデルを理解する 5.倫理の原則を理解する				
使用テキスト	授業で使用したテキストを参考にする				
参考資料	授業で使用した資料を参照する				
評価方法	実習評価表に基づいて行う				

専門分野					
科目名				担当講師	
85.成人・老年看護学実習Ⅲ				星野めぐみ 看護師21年 佐々木保子 看護師7年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2～3	通年	90	2	成人0.6 老年1.4	実習
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 4.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 5.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 7.切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8.看護に興味・関心があり成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	終末期にある対象がQOLを最大限に保ち、その人にとっての良い最期を迎えることができるために、対象者とその家族を統合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護を実践するための知識・技術・態度を学ぶ				
科目目標	1. 対象の多様な生活史や価値観を理解、尊重し、基本的な人間関係を気づくことができる 2. 終末期にある対象および家族の特性を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から統合的に理解することができる 3. 終末期にある対象のQOL維持、向上を目指した看護を科学的根拠に基づき、安全・倫理をふまえて実践できる 4. 終末期にある対象・家族と医療従事者との連携・協働を理解することができる 5. 対象のより良い生を支える看護の意義・役割について説明することができる 6. 医療チームの一員として責任を持った行動が取れる 7. 専門職業人として社会人基礎力を身につけ、倫理的判断に基づいて行動することができる				
授業内容					備考
実習時間	実習期間:12日間(病院実習10日間、学内実習2日間)				
実習内容・方法	1.病院実習 1) 終末期にある患者を原則1名受け持ち、その患者・家族にとってできる限り良好なQOL、よりよい生の実現に向けて、ヘンダーソンの14項目視点の基づきアセスメントし、1項目の看護計画を立案する 2) 看護計画に基づいた看護援助を実施しながら、患者のアセスメントを進め、患者の看護問題を抽出、優先順位を判断し、優先順位が2番目に高い看護問題までに対して看護計画を立案する 3) 立案した看護計画をもとに個別的な援助を実施、評価、修正を行っていく 2.学内実習 対象のQOL向上・維持を目指した看護実践に向けた、思考整理、看護援助の学習を行う 病棟実習での学びをもとに「対象のより良い生を支える看護の意義と役割」について考察を行い、対象のQOL維持・向上を目指した看護実践について考えを深める				
実習施設	上越地域医療センター病院 新潟県厚生農業協同組合連合会けいなん総合病院 医療法人知命堂病院 新潟県立柿崎病院				
事前学修: 1. 終末期にある患者の死の受容過程について、キューブラロスのモデルを用いて理解する。各受容段階でみられる患者の反応(言葉、行動など)と看護についても理解しておく 2. がん性疼痛、食欲低下、嘔気・嘔吐、便秘、全身倦怠感、呼吸困難、浮腫、不安、抑うつについて、授業内容を復習(原因、アセスメントの視点、治療、看護)しておく 3. バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、環境整備、体位交換、口腔ケア、陰部洗浄、おむつ交換、臥床患者の全身清拭と寝衣交換、等、終末期患者に必要なと考えられる看護ケアについて学習、援助計画表を作成し、病棟実習において実践、体験できるよう準備しておく					
使用テキスト:授業で使用したテキストを参考にする 参考資料:授業で使用した資料を参照する					
評価方法:実習評価表に基づいて行う					

専門分野					
科目名				担当講師	
86.対象の体験からQOLを考えて看護につなぐ実習				星野めぐみ 看護師21年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	前期	30	1	地域・在宅0.5 成人0.5 老年0.5	実習
DPとの関連	<p>1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合う</p> <p>3.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える</p> <p>4.地域で生活する人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断する</p> <p>8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組む</p>				
科目目的	成人・老年期にある対象が体験する多様な健康レベル、生活レベルに応じた看護を学び、対象のQOLの維持に向けた看護を実践できる基礎とする。				
科目目標	<p>1.様々な療養の場で対象の体験を知り、その人らしい生を支える看護を考える</p> <p>2.様々な健康レベル、生活レベルにある対象とその家族の身体・精神・社会的な特徴を理解する</p> <p>3.様々な健康レベル、生活レベルにある対象とその家族の生命や生活を支える看護の特徴と実際を理解する</p> <p>4.様々な健康レベル、生活レベルにある対象と家族に関わるチームメンバーの連携・協働の必要性と実際を理解する</p> <p>5.看護専門職として社会人基礎力を意識し、自己の課題にむけて主体的に学修に取り組む</p>				
授業内容					備考
実習時間	1.病院実習26.5時間(救急看護実習7時間、透析看護実習13時間、緩和ケア実習6.5時間) 2.学内実習3.5時間				
実習内容方法	<p>1.救急看護実習</p> <p>1)実習内容 救命救急センターでの見学実習から体験したことをリフレクションすることで、生命の尊さや看護師の観察力・アセスメント能力の重要性を学び、対象とその家族への看護を実践できる基礎的な能力を養う。</p> <p>2)実習方法 看護師の同行し、既習の知識をもとに担当看護師と対話することで、見学実習で体験した学修内容の理解を深める。見学実習での学修内容は、学びシートに記述してリフレクションし、今後の看護に生かせるようにする。また、救命救急センターでの学びをレポートに記述する。</p> <p>2.透析室実習</p> <p>1)実習内容 透析療法の見学、透析療法を受けている対象を受け持ちすることで、透析療法を受けている対象の身体・精神の特徴を理解する。また対象とその家族を支える看護と多職種連携についての理解を深め、健康レベル・生活レベルに応じた看護を実践できる基礎的な能力を養う。</p> <p>2)実習方法 透析療法を受ける対象を受け持ち、入室から退室までの一連に付き添い、体験をする。その付き添い間に、透析治療や治療を継続していくなかでの対象・その家族の経験を聴く。上記の体験したことを学びシートに記述してリフレクションし、今後の看護に生かせるようにする。また、透析室での学びをレポートに記述する。</p> <p>3.緩和ケア実習</p> <p>1)実習内容 ビハラー病棟での看護を見学することで、終末期を迎える患者・家族の身体的・精神の特徴を理解する。また患者・家族を支える看護と多職種連携について理解を深め、その人らしい生を支える看護を実践できる基礎的な能力を養う。</p> <p>2)実習方法 看護師に同行して見学実習を行う。上記の体験したことを学びシートに記述してリフレクションし、今後の看護に生かせるようにする。また、ビハラー病棟での学びをレポートに記述する。</p> <p>4.学内実習 見学実習での体験や学びを発表し、全体で学びを共有する。</p>				
実習施設	新潟県立中央病院 救命救急センター・透析室 新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院 透析室 新潟県厚生農業協同組合連合会 けいなん総合病院 透析室				

事前学修

- 1.各実習施設での健康レベルに応じた対象とその家族の特徴
- 2.各実習施設の機能と役割、特徴
- 3.各実習施設での看護師の役割、法的範囲
- 4.各実習施設でかかわることの多い病態と疾患
- 5.各実習施設での多職種の役割

使用テキスト:講義で使用したテキスト

参考資料:講義で配布した資料

評価方法:実習評価表に基づいて行う

専門分野					
科目名				担当講師	
87.高齢者と生活を学ぶ実習				佐々木保子 看護師7年 俣野詩織 看護師6年 宮越陽子 保健師・看護師17年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2	後期	30	1	地域・在宅看護論0.5・老年看護学0.5	実習
DPとの 関連	<ol style="list-style-type: none"> 1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 5.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 7.切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる 9.多様な文化・価値観を持ったありのままの人間を尊重することができる 10.国際情勢、地域の動向に関心をもつことができる 				
科目目的	上越地域に暮らす高齢者とその特徴と、在宅生活および施設生活の状況を理解し、看護師とともに連携・協働する職種の目的と役割を学ぶ				
科目 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 上越地域でサービスを利用して暮らす高齢者の身体的、精神的(スピリチュアルな側面を含む)、社会的特徴を説明できる 2 高齢者の生活の場である施設(在宅)の個別の環境について説明できる 3 サービスを利用している高齢者の特徴と日常生活を支える様々なケアを説明できる 4 高齢者のもつ健康障害、生きてきた過程や家族への思いからその人らしさの生活を理解できる 5 介護保険サービスを利用している高齢者への各専門職の役割と連携・協働の実際、多職種チームの中での看護の役割を説明できる 6 学修に対し、主体的に責任を持ち、施設職員、他学生と協同する行動ができる 7 対象の尊厳及び権利を尊重した関わりができる 				
事前学修:基礎看護学における技術の練習を行う。社会人基礎力の内容を確認しまとめておく。					
授業内容					備考
実習時間	デイサービス 14時間 介護老人福祉施設 あるいは 介護老人保健施設 どちらかで14時間 最終日学内実習 2時間				
実習 内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・受け持ちをとらず、介護士に同行し、高齢者の生活や援助の一部介助をする。実習時間終了近くに、同行介護士と利用者について確認(高齢者本人やケアについて最後の質疑応答)を行う ・関わった高齢者とその生活についてご本人へインタビューあるいは職員へ質問し、特徴やケア、思いを観察し、考察、記述する ・学内実習では、様々な高齢者の特徴や、在宅、施設生活の環境、思いについてグループ発表を行う 				
実習施設	在宅サービス実習: 上越市社会福祉協議会関連施設 施設サービス実習: ・介護老人保健施設くびきの ・介護老人保険施設はねうまの里 ・介護老人保健施設サンクス米山 ・特別養護老人ホームしおさいの里 ・特別養護老人ホームレルヒの森				
使用テキスト:医学書院;保健医療福祉論、老年看護学 メディカ出版;在宅看護論①② メディックメディア;看護が見える 参考資料:生活と健康が学修した資料および生活と地域包括ケアで学修した資料					
評価方法:実習態度・実習記録内容・課題レポートから実習目標の達成度を評価表を基に評価する。実習態度などは実習指導者からの情報を得て、評価する。					

専門分野					
科目名				担当講師	
88.成人・老年看護学実習 I				星野めぐみ 看護師21年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2～3	通年	90	2	成人0.6 老年1.4	実習
DPとの関連	<p>1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる</p> <p>2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感ずることができる</p> <p>4.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える</p> <p>5.地域で生活する人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断する</p> <p>8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組む</p>				
科目目的	成人期・老年期にある対象者を統合的にとらえ、手術侵襲や生体反応を起こしている対象者及びその家族に対して、科学的根拠に基づいた看護を実践するための知識・技術・態度を習得する。				
科目目標	<p>1.成人期・老年期にある対象者のこれまでの生活史や人生史からの価値観を尊重し、援助に必要な基本的な人間関係を築くことができる</p> <p>2.周手術期にある成人期・老年期の対象者が、手術侵襲や生体反応により影響をうけることを身体的・精神的・社会的・発達課題の側面から統合的に理解することができる</p> <p>3.周手術期にある成人期・老年期の対象者をリスク型看護問題の視点でアセスメントし、看護過程の展開ができる</p> <p>4.成人期・老年期にある対象者の術後合併症の予防と今後の生活を見据えた看護を、科学的根拠に基づき安全・安楽を考慮して実践できる</p> <p>5.侵襲的な治療を受けた成人期・老年期の対象者に対して、専門職業人としての態度を身につけ、倫理的な判断に基づいて行動することができる</p> <p>6.侵襲的な治療を受けた成人期・老年期の対象者及びその家族に対して、医療チームメンバーにおける看護の役割を学び、情報共有や連携の必要性を理解できる</p>				
授業内容					備考
実習時間	1.病院実習時間82.5時間 2.学内実習時間7.5時間				
実習内容方法	<p>1.実習では、全身麻酔下の手術を受ける対象者を術前から受け持ち、術後合併症のリスクをヘンダーソンの14項目の視点でアセスメントする</p> <p>2.アセスメント項目は、手術・麻酔に伴う一般的な影響(生体反応)と基礎疾患による健康障害の程度、併存・既往疾患を踏まえて優先順位の高い項目を行う</p> <p>3.学内実習で受け持ち対象者の情報について思考の整理をし、個別性を踏まえた技術練習をする</p> <p>4.手術室見学は、原則として受け持ち対象者の手術を見学する</p> <p>5.1でアセスメントした項目を関連図<急性期>で情報の統合し、看護計画<急性期>を立案する</p> <p>6.対象の健康レベルが、急性期から回復期に移行したときには、看護計画<急性期>を評価して継続の必要性の有無を判断する。</p> <p>7.退院後の生活の再構築・自己管理に向けての援助・指導を考える上で必要なアセスメント項目のアセスメントを行う。</p> <p>8.6で継続が必要と判断した看護計画とアセスメントした項目を関連図<回復期>で統合し、看護計画<回復期>を立案する。</p> <p>9.急性期・回復期の看護計画の目標は、短期目標を立案して評価していく。ただし、回復期の看護計画には目標の欄の一番上に充足状態を記述する。</p> <p>10.看護計画の評価・修正、看護実施の記録を記述をする。</p>				
実習施設	新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院				
事前学修	<p>1.周手術期の麻酔および侵襲の影響の表を用いて、侵襲による生体反応(ムーアの説)を理解する</p> <p>2.手術後におこしやすい合併症、侵襲・麻酔が生体に及ぼす影響と手術後の修復経過などのメカニズム(発生時期)を理解する</p> <p>3.2の合併症の評価に必要な検査データ・情報の意味・基準値を理解する</p> <p>4.講義での事例の看護過程を修正・理解する</p> <p>5.1～4を踏まえて、術後合併症を早期発見するために必要なフィジカルアセスメントの援助計画表を作成する</p> <p>6.フィンクの危機モデルを理解する</p> <p>7.倫理の原則を理解する</p>				
使用テキスト	講義で使用したテキスト				
参考資料	講義で配布した資料				
評価方法	実習評価表に基づいて行う				

専門分野					
科目名				担当講師	
89.成人・老年看護学実習Ⅱ				星野めぐみ 看護師21年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2～3	通年	90	2	成人0.6 老年1.4	実習
DPとの関連	<p>2.対象に関心に向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じる</p> <p>3.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉える</p> <p>4.地域で生活する人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断する</p> <p>5.その人らしく生活することが出来るように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践する</p> <p>6.主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高める</p> <p>7.切れ目のない医療の実現に向け、他職種チームの中で看護の視点から発信でき、他職種と対話する</p> <p>8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組む</p> <p>9.多様な文化・価値観を持ったありのままの人間を尊重する</p>				
科目目的	成人期・老年期にある対象者を統合的にとらえ、慢性期にある対象者及び家族に対して、科学的根拠に基づいた看護を実践するための知識・技術・態度を習得する				
科目目標	<p>1.成人期・老年期にある対象者の生活史や人生史からの価値観を尊重し、援助に必要な基本的な人間関係を築くことが出来る</p> <p>2.慢性期にある成人期・老年期の対象者の特性を身体的・精神的・社会的・発達段階の側面から統合的に理解することが出来る</p> <p>3.慢性期にある成人期・老年期の対象者をセルフマネジメント能力の確立の視点でアセスメントし、看護過程の展開ができる</p> <p>4.成人期・老年期の対象者のQOLを尊重し、セルフマネジメント能力を踏まえた退院後の生活を見据えた看護を、科学的根拠に基づき、安全・安楽を考慮して実践できる</p> <p>5.慢性期にある成人期・老年期の対象者に対して、専門職業人としての態度を身につけ、倫理的な判断に基づいて行動することが出来る</p> <p>6.慢性期にある成人期・老年期の対象者及びその家族に対して、フォーマルな社会資源を学び、医療チームメンバーの情報共有や連携の必要性を理解できる</p>				
授業内容					備考
実習時間	実習期間:12日間(病院実習10日、学内実習2日)				
	<p>1) 病院実習</p> <p>1.対象者の疾病による症状と支援者の状況、また生活とともに自己管理を行う上で必要なセルフマネジメント能力をヘンダーソン14項目の視点でアセスメントする</p> <p>2.アセスメント項目は、対象者のQOL、セルフマネジメント能力を踏まえ、退院後の生活を見据えて優先順位の高い項目を行う</p> <p>3.援助は、看護計画が立案されていなくともアセスメントの指導を受けて対象の状態把握ができていれば、援助計画表をもとに実施する</p> <p>4.14項目のアセスメントを、全体像で情報の統合を行う</p> <p>5.対象者の今後の生活を見据え、自立性・自律性を促し自己効力を高められる看護計画を立案する</p> <p>6.看護計画の目標、評価・修正、看護実施記録は、記述する</p> <p>7.看護計画をもとに受け持ち対象者又は家族・支援者のセルフマネジメント能力を踏まえて、退院後の生活の再構築・自己管理に向けた指導を実施する</p> <p>8.看護計画の評価を踏まえて、対象者・家族に今後も継続が必要とされる援助・指導の経過を看護要約に記述する</p> <p>2)学内実習</p> <p>対象のQOL、セルフマネジメント能力を踏まえ、退院後の生活を見据えた看護実践に向けた思考整理、看護援助の学習を行う</p> <p>病棟実習での学びをもとに、対象に安全安楽に看護を実践するための技術練習を行う</p>				
実習施設	国立病院機構さいがた病院 新潟県厚生農業協同組合連合会上越総合病院				
事前学修	<p>1.患者の思いを知るために、慢性疾患を患っている患者の手記や配信動画を見て、感想や思いをレポートにまとめる</p> <p>2.講義で学んだ看護要約の記述方法を復習する</p> <p>3.病みの軌跡を理解する</p> <p>4.フィングの危機モデル・コーンの危機モデルを理解する</p> <p>5.倫理の原則を理解する</p>				
使用テキスト	授業で使用したテキストを参考にする				
参考資料	授業で使用した資料を参照する				
評価方法	実習評価表に基づいて行う				

専門分野					
科目名				担当講師	
90.成人・老年看護学実習Ⅲ				星野めぐみ 看護師21年 佐々木保子 看護師7年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2～3	通年	90	2	成人0.6 老年1.4	実習
DPとの関連	1.すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3.看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 4.地域で暮らす人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 5.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 7.切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8.看護に興味・関心があり成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる				
科目目的	終末期にある対象がQOLを最大限に保ち、その人にとっての良い最期を迎えることができるために、対象者とその家族を統合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護を実践するための知識・技術・態度を学ぶ				
科目目標	1. 対象の多様な生活史や価値観を理解、尊重し、基本的な人間関係を気づくことができる 2. 終末期にある対象および家族の特性を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から統合的に理解することができる 3. 終末期にある対象のQOL維持、向上を目指した看護を科学的根拠に基づき、安全・倫理をふまえて実践できる 4. 終末期にある対象・家族と医療従事者との連携・協働を理解することができる 5. 対象のより良い生を支える看護の意義・役割について説明することができる 6. 医療チームの一員として責任を持った行動が取れる 7. 専門職業人として社会人基礎力を身につけ、倫理的判断に基づいて行動することができる				
授業内容					備考
実習時間	実習期間:12日間(病院実習10日間、学内実習2日間)				
実習内容・方法	1.病院実習 1) 終末期にある患者を原則1名受け持ち、その患者・家族にとってできる限り良好なQOL、よりよい生の実現に向けて、ヘンダーソンの14項目視点の基づきアセスメントし、1項目の看護計画を立案する 2) 看護計画に基づいた看護援助を実施しながら、患者のアセスメントを進め、患者の看護問題を抽出、優先順位を判断し、優先順位が2番目に高い看護問題までに対して看護計画を立案する 3) 立案した看護計画をもとに個別的な援助を実施、評価、修正を行っていく 2.学内実習 対象のQOL向上・維持を目指した看護実践に向けた、思考整理、看護援助の学習を行う 病棟実習での学びをもとに「対象のより良い生を支える看護の意義と役割」について考察を行い、対象のQOL維持・向上を目指した看護実践について考えを深める				
実習施設	上越地域医療センター病院 新潟県厚生農業協同組合連合会けいなん総合病院 医療法人知命堂病院 新潟県立柿崎病院				
事前学修: 1. 終末期にある患者の死の受容過程について、キューブラロスのモデルを用いて理解する。各受容段階でみられる患者の反応(言葉、行動など)と看護についても理解しておく 2. がん性疼痛、食欲低下、嘔気・嘔吐、便秘、全身倦怠感、呼吸困難、浮腫、不安、抑うつについて、授業内容を復習(原因、アセスメントの視点、治療、看護)しておく 3. バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、環境整備、体位交換、口腔ケア、陰部洗浄、おむつ交換、臥床患者の全身清拭と寝衣交換、等、終末期患者に必要なと考えられる看護ケアについて学習、援助計画表を作成し、病棟実習において実践、体験できるよう準備しておく					
使用テキスト:授業で使用したテキストを参考にする 参考資料:授業で使用した資料を参照する					
評価方法:実習評価表に基づいて行う					

専門分野					
科目名				担当講師	
91.リプロダクティブヘルス看護学実習 I				横澤亜希子 助産師・看護師25年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2 3	後期 通年	60	2		実習
DPとの 関連	1.すべての対象の生命が守られることを判断および行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる。 2.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じるができる。 3.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全安楽な看護を実践することができる。				
科目 目的	周産期と新生児期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、ウェルネス志向で看護過程の展開ができる				
科目 目標	1. 対象の身体的・精神的・社会的側面を統合的に把握し、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の看護過程を展開できる 2. 対象およびその家族の特徴を理解・尊重し、良好な人間関係を構築でき、安全・安楽な看護援助を実践する 3. 倫理原則を意識し、報告・連絡・相談をもって判断・行動できる 4. 母子保健に関する社会資源と保健・医療・福祉チームの連携を学ぶことができる 5. 看護学生として自己研鑽し、主体的姿勢を持つことができる				
授業内容					備考
実習時間	学内実習:15時間 病院実習:45時間				
実習 内容・方法	学内実習:学内でシミュレーション実習及びカンファレンス 病院実習:産褥期・新生児期にある母子あるいは妊娠期にある入院患者様を受持ち、看護過程を展開する				
実習施設	病院実習:新潟県厚生農業協同組合連合会糸魚川総合病院第4病棟・産婦人科外来				
事前学修:①妊婦健康診査目的と内容 ②産褥期の特徴と看護 ③新生児の特徴と看護 ④実習で行う看護技術の援助計画書					
評価方法:実習評価表に準ずる					

専門分野					
科目名				担当講師	
92.リプロダクティブヘルス看護学実習Ⅱ				横澤亜希子 助産師・看護師25年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2 3	後期 通年	30	1		実習
DPとの 関連	1.対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる。 2.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全安楽な看護を実践することができる。				
科目 目的	地域で暮らす、リプロダクティブヘルス看護学の対象者の健康レベルに合わせた支援の実際を学ぶ				
科目 目標	1.対象の特徴を理解・尊重した良好な人間関係を構築しながら行われる安全・安楽な看護の実際を理解できる 2.母子保健に関する社会資源と保健・医療・福祉チームの連携を学ぶことができる 3.看護学生として自己研鑽し、主体的姿勢を持つことができる 4.倫理原則を意識し、報告・連絡・相談をもって判断・行動できる				
授業内容					備考
実習時間	学内実習:7.5時間 市役所実習:7.5時間 地域リプロダクティブヘルス支援事業見学実習:15時間				
実習の 内容・ 方法	学内実習:リプロダクティブヘルス看護学対象者の社会資源の活用に関するカンファレンス 市役所実習:妊娠・分娩・産褥・新生児期に纏わる社会資源活用に関する体験・見学実習 リプロダクティブヘルス支援事業見学実習:市役所主催の両親学級、高校生への性教育等の見学				
実習施設	市役所実習:糸魚川市役所子ども課・市民課 地域リプロダクティブヘルス支援事業見学実習:糸魚川市子ども課主催 /糸魚川市保健センター・糸魚川市内の中学、高校等				
事前学修:リプロダクティブヘルス看護学対象者の社会資源の活用に関する情報収集や復習					
使用テキスト:メディカ出版テキスト/母性看護学(1)概論テキスト・母性看護の実際・母性看護技術 参考資料:母性看護学講義資料					
評価方法:実習評価表に準ずる					

専門分野					
科目名				担当講師	
93.こども看護学実習				船岡 未恵 看護師14年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
2年次 3年次	後期 通年	90	2		実習
DPとの 関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. すべての対象の生命が守られることを判断及び行動の基本とし、人の生死に真摯に向き合うことができる 2. 対象に関心を向けて、優しさ・温かさ・柔軟性を備えた豊かな心を育み、対象と同じ方向を向いて、共に生きる幸せや喜び、悲しみを感じることができる 3. 主体的に仲間とともに考え、協力して課題を解決し、その経験を通して、達成感や自尊感情を高めることができる 4. 看護の対象と意図的に関わり、多様性を踏まえて、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉えることができる 5. 地域で暮らし人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断できる 6. その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 7. 切れ目のない医療の現実に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8. 看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組むことができる 9. 多様な文化・価値観をもったありのままの人間を尊重することができる 10. 国際情勢、地域の動向に関心をもつことができる 				
科目 目的	こどもとその家族の健康レベルを形態的・機能的変化と心理的・社会的変化から捉え、看護実践に必要な知識・技術・態度を習得する				
科目 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの成長・発達を形態的・機能的と心理的・社会的変化から理解できる 2. こどもとその家族を尊重した行動がとれ、守秘義務を遵守できる 3. 地域で生活しているこどもとその家族の日常生活と特徴を理解することができる 4. 外来の環境とその特徴を踏まえ、看護師の担う役割が理解できる 5. 入院しているこどもとその家族に及ぼす影響や個性に応じて必要な援助ができる 6. こどもとその家族における保険・医療・福祉および教育の役割と多職種による連携を理解できる 				
授業内容					備考
実習時間	保育園実習 15時間 病院実習 45時間 放課後等デイサービス 20時間 学内実習 20時間				
	〈保育所実習〉 <ol style="list-style-type: none"> 1. こどもとの関わりから成長・発達の実際を学ぶ 2. 保育園における安全安楽な環境の実際を学ぶ 3. こどもの基本的生活習慣の獲得について学ぶ 4. こどものあそびの必要性について、場面から実際を学ぶ 5. 保育園における多職種との連携について実際を学ぶ 6. 留意すべきこどもの権利について実際を学ぶ 〈放課後等デイサービス〉 <ol style="list-style-type: none"> 1. スタッフミーティングに参加し、利用されるこどもに関する情報収集を行う 2. 利用されるこどもの健康を守られる実際について学ぶ 3. 利用されるこどもの送迎に同行し、学校との連携について学ぶ 4. 健康を維持しながら、地域で生活しているこどものケアを学ぶ 5. こどもの個性に合わせた発達支援の実際を学ぶ 6. 家族との連携について学ぶ 7. 放課後等デイサービスにおける多職種との連携について実際を学ぶ 8. 留意すべきこどもの権利について実際を学ぶ 				

<p>実習 内容・方法</p>	<p>(外来実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児科外来におけるこどもとその家族が安全・安楽に診療が受けられる実際を学ぶ 2. 場面から小児科外来の看護師の役割について学ぶ 3. 小児科外来における多職種との連携について実際を学ぶ 4. 看護領域で留意すべきこどもの権利について実際を学ぶ <p>(病棟実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟にけるこどもとその家族が安全・安楽に入院生活が送られる環境の実際を学ぶ 2. こどもを選定し、入院による影響を考慮したケアを学ぶ 3. こどもとその家族の個性を尊重した援助的な人間関係を構築する 4. こどもの個性を考慮したプレバレーションを実施する 5. こどもの個性を考慮したあそびを実施する 6. 看護領域で留意すべきこどもの権利について実際を学ぶ <p>(学内実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上越地域でこどもが関連する社会保障制度と多職種連携について理解する 2. 地域における保育園の特徴を捉える 3. 地域における放課後等デイサービスの特徴を捉える 4. 看護領域で留意すべきこどもの権利について関連づける 5. 実習施設での学びを共有し、考察する 	
<p>実習施設</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放課後等デイサービス「ららん」 2. 放課後等デイサービス「もーと」 3. つちばし保育園 4. 新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院 4階南病棟・小児科外来 	
<p>事前学修:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの成長・発達 2. 看護領域で留意すべきこどもの権利 3. こどもとその家族に関連する社会保障制度と多職種連携 4. 地域における保育園の役割 5. 地域における放課後等デイサービスの役割 6. バイタルサイン測定 7. 予防接種 8. 乳幼児健診 9. 外来の特徴 10. こどもの安全安楽な環境 11. その他、状況により示す 		
<p>使用テキスト: メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護② 小児看護技術 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護③ 小児看護の疾患と看護</p> <p>参考資料: 必要に応じて紹介</p>		
<p>評価方法: 実習態度・実習記録等から小児看護学実習評価表を用いて、総合的に評価する</p>		

専門分野					
科目名				担当講師	
94.看護の統合と実践実習				渡部恵利香 看護師8年	
年次	時期	時間数	単位	内訳(領域横断がある場合のみ)	授業形態
3	後期	90	2		実習
DPとの関連	5.地域で生活する人々のニーズを踏まえ、予測しながら、いつどのような看護が必要か科学的根拠に基づいて判断する 6.その人らしく暮らすことができるように、その人の持てる力を活用し、安全・安楽な看護を実践することができる 7.切れ目のない医療の実現に向け、多職種チームの中で看護の視点から発信でき、多職種と対話ができる 8.看護に興味・関心があり、成長したいという意欲をもって、主体的に学習に取り組む 9.多様な文化・価値観を持ったありのままの人間を尊重することができる 10.国際情勢、地域の動向に関心をもつことができる				
科目目的	1.看護チームの一員として看護実践を体験することにより、チームにおける看護師の役割と看護実践を学ぶ 2.知識と実践を結びつけて臨床判断能力を体験し、主体的・対話的な学びをする 3.これまでの実習の学びを統合してリフレクションすることで、看護職に向けての自己の方向性を見出し、課題を明確にする				
科目目標	1.看護チームにおけるチームリーダー及びチームメンバーの役割を理解する 2.看護における情報共有、在宅療養を支える連携と継続的なかわりを見学し、看護の継続性と多職種連携を理解する 3.看護師について複数患者の看護を体験し、優先順位と時間管理を考慮して業務する必要性を理解する 4.看護師同行時に対象の状況を把握して看護実践し、看護師の臨床判断能力と照らし合わせて省察する 5.夜間における看護師の役割を理解する 6.病棟管理・看護管理について理解する 7.これまでの実習の学びを統合してリフレクションし、目指す看護師像と今後の課題を明確にする				
授業内容					備考
実習時間	1.病院実習82.5時間 2.学内実習7.5時間				
実習内容方法	1.病院・病棟管理実習は、病院組織と看護管理について説明を受けて、組織における看護部の役割を学ぶ 2.師長見学実習は、看護師長に午前のみ同行して、看護管理の過程を具体的に学ぶ 3.医療事故対策・院内感染対策では、注目した対策について病棟で看護職全体への周知徹底するための方法を学ぶ 4.リーダー見学実習は、リーダー看護師に15時まで同行し、リーダーの役割と看護チーム・医療チームでの情報共有の方法を学ぶ 5.一勤務帯同行実習は、担当看護師に終日同行し、日勤帯から夜勤帯への看護業務引き継ぎを見学する。 6.日勤帯同行実習は、メンバー看護師に15時まで同行して複数受け持ちの看護を体験し、複数患者を重要度・緊急度からアセスメントし、優先順位を判断する 7.臨床判断能力の体験では、5、6の同行実習で看護を実践し、その思考過程を看護師に説明し、指導内容の看護師の臨床判断能力と照らし合わせて省察する 8.診療の補助技術は、日勤帯同行実習で見学した内容を事後学習し、患者の状態からその患者にとっての目的・手順(病院における看護基準・手順)・留意点を記述する 9.退院調整看護師同行実習では、退院調整看護師に15時まで同行して、その役割と在宅療養を支えるための資源の調整、多職種との連携を学ぶ 10.夜間帯見学実習は、重要度・緊急度の高い患者の情報収集をする。また、夜間体制(少人数体制)での協力体制や夜勤帯での患者の行動や心理状態の変化への看護を学ぶ。 11.実習課題レポートの記述と学内実習で理解の共有を行い、これまでの学習を統合する				
実習施設	新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院 新潟県厚生農業協同組合連合会 けいなん総合病院 新潟県厚生農業協同組合連合会 糸魚川総合病院 新潟県立柿崎病院 独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター病院 新潟県立松代病院 医療法人 知命堂病院				
事前学修					
1.目標に沿って、講義の「看護管理と環境に応じた看護の機能」と「チーム連携」を復習する					
使用テキスト:講義で使用したテキスト 参考資料:講義で配布した資料					
評価方法:実習評価表に基づいて行う					